異端の傍観者

鮮血

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
異端の傍観者

【Ｎコード】
Ｎ０４８３ＢＡ

【作者名】
鮮血

【あらすじ】
作者の暇潰して書いたものです。

1話

例えばもし、親友が異世界に行き帰ってきたら。
そしてそれが誰にも異世界に行ったことも帰ってきたことがきずかれなかったら。
そんなことが霧島零士(きりしまれいじ)の友達には、そんなことがあった異世界に行ったことは本来行った本人にしか知らないはずなのに、零士だけは異世界に行ったことを知っていた。
これは神から一切の鑑賞されないと言うことである。
神に鑑賞されないと言うことは、神に匹敵する力か、それ以上の力があるかのどちらかである。
この事は、零士しか知らない　。

「どうした零士」

零士に話しかけてきたのは、神崎聖徒(かんざきせいと)異世界に行った男である。

「いや、神崎は苦労してると思って」

「そうだな俺は受験勉強で大変だな」

そう零士達は中学三年で今は、受験勉強をしている。

「そうだね、大変だね」

「お前は違うだろ、推薦でもう決まってるから俺なんてこれから受験勉強だぞ」

「そんなこと言っても他の中学三年生も勉強しているよ」

「そうだなそれにしても、寒いな」

「１２月だからね寒いのもしょうがなですよ現に今雪降っています」

「そうだな、明日学校いけば冬休みだし」

「そうですよ明日まで頑張れば冬休みですよ、冬休みが終わって三学期に入ると受験で大変でけど」

「零士お前そんなこと言うなよ」

「悪かったね、でもこの休みの間に勉強すれば大丈夫だよ」

「そうだな、それじゃ俺はこっちの帰り道なから」

そう言って零士と聖徒は、分かれ道で別れた。

「神崎も大変だな、異世界に行った後すぐ受験勉強だからな、まあしょうがないか」

そんなことを呟きながら零士は帰っていった。

零士はこの時、聖徒が厄介ごとに巻き込まれているとは思ってもいなかった。

そしてそれが零士自身に降りかかってくるとも思ってもいなかった。

2話

冬休み前の最後の学校。
いつものように学校に行くため家を出て零士は昨日聖徒と別れた道に行くとそこには、女子に囲まれた聖徒がいた。
それを零士は無視して学校に向かった。
聖徒は困っている人がいると助けるそれに聖徒はかなりのイケメンであるために、助けた女子に好かれるが本人はきずいていない。
零士が学校に着くと女子が話しかけてきた。

「あ、零士おはよう」

零士に話しかけてきたのは、不知火(しらぬいまお)舞桜である。舞桜は白銀の髪に青い瞳で学校ではアイドル的存在でり、零士と舞桜は幼馴染みである。

「おはようございます」

「あれ、神崎君は」

「聖徒なら学校に行く途中で女子に囲まれてましたよ、それより不知火は学校に着くのが早いですね何かありましたか」

「生徒会の引き継ぎに手間取って、それより零士何で不知火て言うの前に舞桜て呼んでって言ったよね」

「忘れていました」

「今度から忘れないでよもし忘れたら、……そのデー……ト……と

してよ……」

「なんて言ったの」

舞桜は顔を赤くして下を向いてしまった。
零士は舞桜が言ったが聞き取れなかった部分を考えていて、舞桜が顔を赤くして下を向いてしまったことに気付かなかった。

「零士お前学校に先に来てたんだん、またやらかしたな」

「え、なにお」

「何でもない」

こんな感じで、舞桜が零士に恋していることを気が付いていない。

「零士、不知火そろそろ教室に行くぞ」

聖徒の言葉によって零士と舞桜は教室にむかっていった。
始業式が終わった零士達は教室で冬休みについて話し合っていた。

「零士は冬休み何かするのか」

「寒いから家から出たくないからなにもしない」

「んじゃ、俺とどっか行くか」

「いいよ、聖徒は他に用事ができると思うから特に女性関係で」

「ん、どう言うことだ」

「気にしなくていいよ」

こんな感じで零士達は中学三年生最後の冬休みを迎えた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0483ba/

異端の傍観者

2012年1月1日23時54分発行